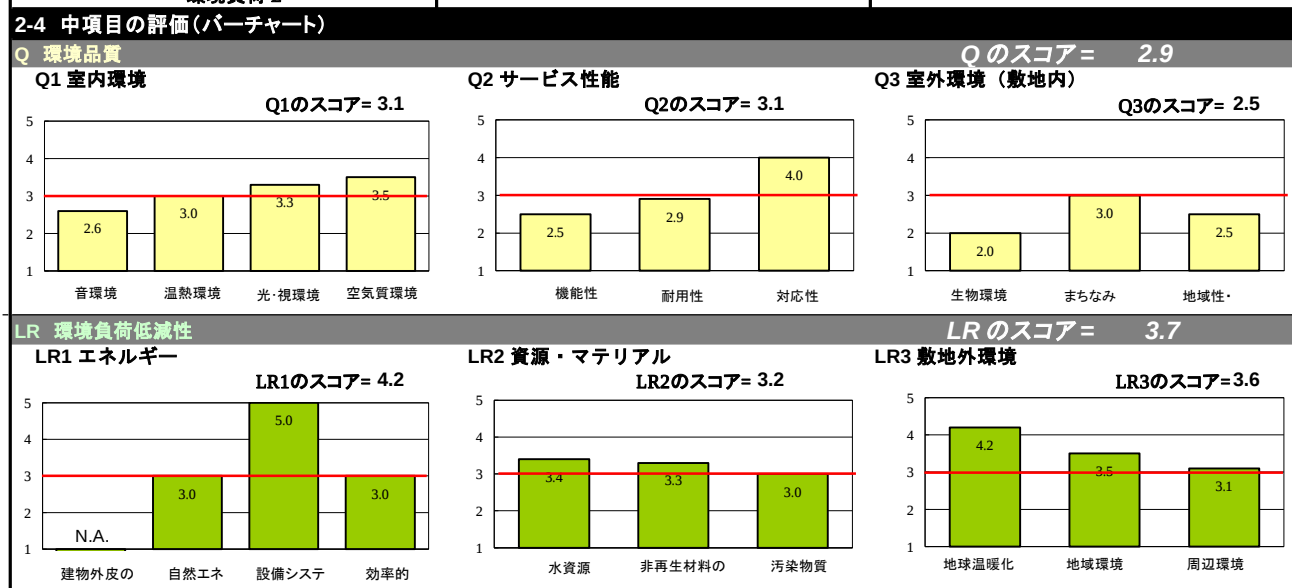
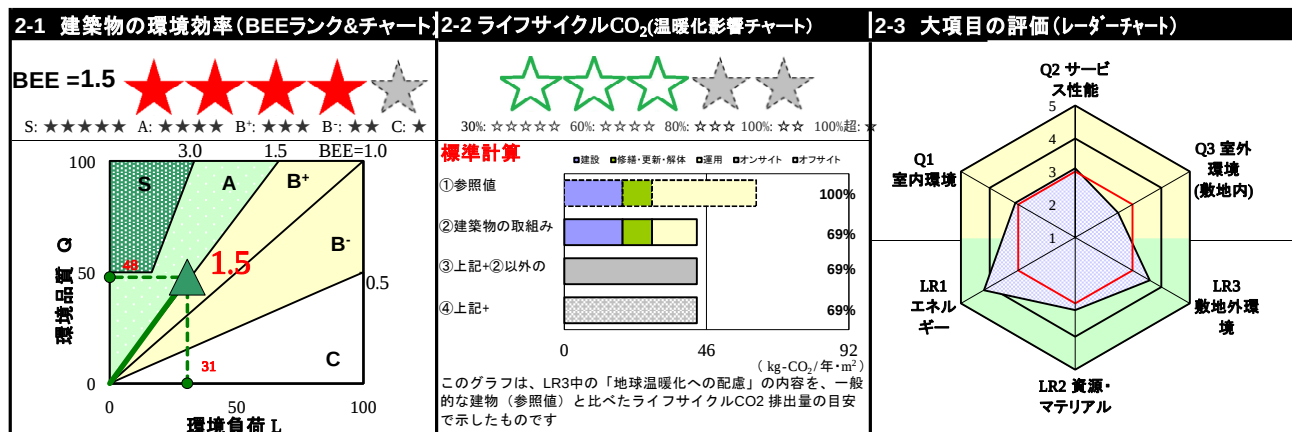


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)豊中配送センター	階数	地上4F	
建設地	大阪府豊中市走井	構造	S造	
用途地域	準工業地域	平均居住人員	50人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年10月1日	
敷地面積	4,575 m ²	作成者	松本 孝文	
建築面積	2,995 m ²	確認日	2024年10月1日	
延床面積	11,851 m ²	確認者	松本 孝文	



3 設計上の配慮事項		
総合		
高効率な設備機器、節水器具を積極的に採用し、環境負荷低減に配慮した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境に配慮した。	5.0m以上の階高を確保し、空間の対応性・更新性に配慮した。	敷地周囲に緑地帯を配置し、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明の採用により、設備システムの高効率化に努め、エネルギー使用量削減に配慮した。	節水型便器を採用し、水資源の保護に配慮した。リサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮した。	適切な量の駐車、駐輪スペースを確保することで交通負荷抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)豊中配送センター								
建設地		大阪府豊中市走井								
用途／区分		工場 事務所								
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A			
①	CO2削減						4			
②	みどり・ヒート アイランド対策						3			
③	断熱性能							評価対象外		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
④	エネルギー消費性能							5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外 					評価対象外 6		
⑤	自然エネルギー直接利用							—		
	再生可能エネルギー		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		
	利用施設の導入状況		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	4.2	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制		
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		